

新聞を開いてまず目に入るのは大きな見出しです。見出しとは、「新聞・雑誌などで、記事の内容・重要度が一目で分かるように、主に本文の前に置く短い言葉」のことで、普通7字から10字程度で書かれた記事のエッセンスです。見出しのことをタイトルという人を見かけますが、これは題名、書名などのことで新聞の見出しには使いません。

「見出しは分かりやすくシンプルに」が原則のようです。振り仮名が付けられることも普通ありません。朝日新聞朝刊で毎月第1日曜日に掲載されている「もっと教えて！ドラえもん」の本文には振り仮名が振ってありますが、見出しの漢字には一つも付けられていません。

さて、見出しの働きには次のようなものがあります。

- ・記事の種類や要点を一目で伝えます。本文を読まなくても、見出しを見ただけで、その内容をある程度、伝える役目を果たします。
- ・見出しの大きさや位置によって、その記事の重要度やニュース価値を伝えます。大きな見出しは、それだけで記事の重要性を示し、読者の目にもとまります。
- ・見出しの言葉によって、読者にその記事を読んでもみよう、という気持ちを起こさせます。
- ・紙面全体のアクセントとなり、魅力的で読みやすい紙面とします。

見出しを使った授業例

- ・ある1ページの中にある見出しの漢字・熟語に振り仮名を振ろう。まだ習っていない漢字を読めるようになることも勉強の一つです。
- ・見出しの文には省略があります。主語や動詞などを補って意味がよく分かるような文に直そう。
- ・指定した記事に自分独自の見出しを付けてみよう。見出しの部分を白紙で隠した記事をコピーして配ります。見出しが二つ以上ある記事（トップ記事かそれに準じた記事）がよいでしょう。

同じような意味の言葉がダブらないように付けるのがコツで、二つの見出しを一つにつなげてみると、ダブリがあるかどうかはすぐ分かります。

＝紙面は東京本社発行の最終版に基づく
(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)